

令和3年度 社会福祉法人静岡福祉事業協会事業報告

当法人は伝統ある社会福祉法人として、法人の経営理念及び運営基本方針に基づき、適切な福祉施設の運営に努めた。

法人駐車場について、耐震性能と出入りの際の視界の妨げが懸案となっていた駐車場出入り口のコンクリートブロック塀を撤去し、新たにメッシュフェンスに改修した。また、駐車場の利用者への注意喚起のための最徐行の路面表示と、消えかかっていた駐車スペースを区分けする白線の引き直しを行い安全性を高めた。

また、快適で安全な環境を確保するため、駐車場内の両サイドの枯れかかり美観を損ねていた植物の植込みをレッドロビン、イワダレ草などに入れ替えることにより、整った良い印象を作り出すことができた。

千代田寮においては昨年度に引き続き、施設の環境整備・食育の一環として、外庭の菜園スペースでさつまいもの栽培を行った。菜園の管理や水やりを、千代田寮の児童と千代田保育園の園児が共同で行って育成を見守り、自然と触れ合う機会を増やし、植物を大切に育てることにより児童への情操教育を実践した。

この他、外庭の芝生エリアにおいては、芝生の保護・再生の為に養生を行った。

加えて外庭のフェンス沿いの花壇には、季節ごとに色とりどりの花を植栽し、ヒーリングガーデン効果による利用者への癒しの提供に努めた。

千代田保育園においては、廊下のフローリング修繕工事を施工し、園舎内をリフレッシュした。

社会福祉法による『地域における公益的な取組を実施する責務』の一環として実施している会場貸出などの一部の活動は、新型コロナウイルスの影響により制限せざるを得ない状況となったが、千代田寮における施設退所者への継続的な相談支援や、トワイライトステイ事業への取り組みは、コロナ禍によって衰退させることなく積極的に推進した。

I 施設運営事業報告

1 母子生活支援施設『千代田寮』の運営

(1) 運営の方針

千代田寮は、児童福祉法の理念に基づき、配偶者のいない女子又は、これに準じる事情にある女子及びその者が監護すべき児童を入所によって保護するとともに、児童が心身ともに健やかに育つよう、また、母親が経済的、社会的に自立できるよう総合的な支援を行った。

(2) 支援世帯数の状況

令和3年度は、千代田寮入所定員30世帯に対し、前年度末の在所世帯は28世帯であったが、10世帯が自立等により退所し、新たに7世帯が入所したことにより、3月末現在では25世帯の在所状況となった。

(詳細報告は千代田寮事業報告書記載のとおり)

2 保育所『千代田保育園』の運営

(1) 運営の方針

千代田保育園は、保育ニーズが多様化する中で、保育を必要とする子ども達を受け入れ、保育理念等に基づき保育の充実に努めるとともに、こどもの健やかな成長のために質の高い保育サービスの提供に努めた。

(2) 保育園児の状況

令和3年度は、千代田保育園利用定員180人に対し、新入園児25人を迎え、年度当初の在園児は167人であったが、年度途中5人が転居等により退園し、新たに19人が入園したことにより、3月末在園児数は181人となった。

(詳細報告は千代田保育園事業報告書記載のとおり)

Ⅱ 役員会議等事業報告

1 理事会の開催

(1) 令和3年度 第1回理事会

期日 令和3年6月4日(金)

場所 (福) 静岡福祉事業協会

- 議題
- ① 令和2年度事業報告
 - ② 令和2年度本部及び施設拠点区分収支決算
 - ③ 令和3年度本部及び施設拠点区分第1次補正予算
 - ④ 理事及び監事候補者の選定
 - ⑤ 評議員候補者の推薦
 - ⑥ 評議員選任・解任委員会 委員の選任
 - ⑦ 評議員選任・解任委員会の開催
 - ⑧ 令和3年度定時評議員会の開催

報告事項

- ① 社会福祉充実計画について
- ② 職務執行状況について

(2) 令和3年度 第2回理事会

期日 令和3年6月29日(火)

場所 (福) 静岡福祉事業協会

- 議題
- ① 理事長の選定
 - ② 常務理事の選定

報告事項

- ① 社会福祉充実計画について
- ② 職務執行状況について

(3) 令和3年度 第3回理事会

期日 令和3年11月11日（木）

場所 （福）静岡福祉事業協会

報告事項

- ① 評議員の選任（評議員選任・解任委員会議事録）
- ② 令和3年度上半期 事業実施状況報告
- ③ 令和3年度上半期 収支予算執行状況報告
- ④ 職務執行状況報告

(4) 令和3年度第4回理事会

期日 令和4年3月18日（金）

場所 （福）静岡福祉事業協会

- 議題
- ① 処遇改善の実施（案）
 - ② 令和3年度本部、施設拠点区分第2次補正予算（案）
 - ③ 令和4年度事業計画（案）
 - ④ 令和4年度本部、施設拠点区分収支予算（案）
 - ⑤ 就業規則の一部改正（案）
 - ⑥ 育児休業及び育児短時間勤務に関する規則の一部改正（案）
 - ⑦ 介護休業及び介護短時間勤務に関する規則の一部改正（案）
 - ⑧ 給与規程の一部改正（案）
 - ⑨ 監事候補者の選定（案）
 - ⑩ 令和3年度第2回評議員会の開催

2 評議員会の開催

(1) 令和3年度定時評議員会

期日 令和3年6月29日（火）

場所 （福）静岡福祉事業協会

- 議題
- ① 令和2年度本部及び施設拠点区分収支決算
 - ② 令和3年度本部及び施設拠点区分第1次補正予算
 - ③ 理事の選任
 - ④ 監事の選任

報告事項

- ① 社会福祉充実計画について
- ② 令和2年度 事業報告

(2) 令和3年度第2回評議員会

期日 令和4年3月29日（火）

- 場所 (福) 静岡福祉事業協会
- 議題 ① 令和 3 年度本部、施設拠点区分第 2 次補正予算 (案)
- ② 令和 4 年度事業計画 (案)
- ③ 令和 4 年度本部、施設拠点区分収支予算 (案)
- ④ 監事の選任 (案)

3 監査の実施

(1) 当法人の監事による決算監査

- ・対 象 令和 2 年度事業執行状況及び経理状況
- ・実施期日 令和 3 年 5 月 27 日 (木)
- ・監査結果 令和 3 年 5 月 27 日 (木)
 - ① 事業報告等の監査結果
 - 一 事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
 - 二 理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
 - ② 計算関係書類及び財産目録の監査結果
 - 計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

(2) 当法人監事による定期監査 (中間監査)

- ・対 象 令和 3 年度上半期、事業執行状況及び経理状況
- ・実施期日 令和 3 年 10 月 26 日 (火)
- ・監査結果 令和 3 年 10 月 26 日 (火)

令和 3 年度上半期分 (R3.04.01～R3.09.30) の社会福祉法人静岡福祉事業協会の事業、貸借対照表及び収支計算書については、関連する法令及び通知に従った監査の結果、適正であると認めます。

(3) 静岡市保健福祉長寿局健康福祉部福祉総務課監査指導係による令和 3 年度の「当法人」に対する指導監査

- ・対 象 (福) 静岡福祉事業協会
- ・実施期日 令和 3 年 11 月 26 日 (金)
- ・監査結果 令和 3 年 12 月 21 日 (火)

文書指摘 なし

(4) 静岡市保健福祉長寿局健康福祉部福祉総務課監査指導係による令和 3 年度の「千代田寮」に対する指導監査

- ・対 象 千代田寮
- ・実施方法 書面監査

- ・実施期日 令和 3 年 11 月 26 日（金）
- ・監査結果 令和 3 年 12 月 21 日（火）
文書指摘 なし

(5) 静岡市子ども未来局幼保支援課による令和 3 年度の「千代田保育園」に対する指導監査

- ・対 象 千代田保育園
- ・実施方法 書面監査
- ・実施期日 令和 3 年 7 月 1 日、7 月 8 日、7 月 14 日、7 月 21 日
(電話による実施)
- ・監査結果 令和 3 年 8 月 3 日（火）
文書指摘事項 なし

4 評議員選任・解任委員会の開催

(1) 令和 3 年 6 月 17 日（木）

場所 (福) 静岡福祉事業協会

議題 評議員の選任

選任された評議員氏名

渡邊 登（再任）

田口喜久恵（再任）

増田真理江（新任）

小林壽江（再任）

間部明彦（再任）

藤田一敏（再任）

五十右恵子（再任）

5 法人内部の運営会議

下記の運営会議を実施し、法人組織の強化、健全な施設経営の推進に努めた。
(経営環境と経営状況の把握・分析に基づき経営課題を明確にし、具体的な取組を協議)

(1) 千代田寮運営会議：毎月第 2 水曜日（月例）

- ① 実施回数 12 回
- ② 会議事項
 - ・月間事業実施状況
 - ・母子生活支援に係る懸案事項等の調整
 - ・入所者支援充実、常に選ばれる施設になるための具体的方策
 - ・その他

(2) 千代田保育園運営会議：毎月第 3 水曜日（月例）

- ① 実施回数 12 回
- ② 会議事項
 - ・ 月間事業実施状況
 - ・ 保育に係る懸案事項等の調整
 - ・ 質の高い保育の提供、保育園児を確保するための具体的方策
 - ・ その他

(3) 法人本部運営会議：毎月第 1 水曜日（月例）

- ① 実施回数 12 回
- ② 会議事項
 - ・ 月間事業費執行状況（月次試算表の状況）及び月次経営成績
 - ・ 施設利用者数確保のための具体的方策
 - ・ 法人経営、組織等に係る共通事項・懸案事項等の調整
 - ・ その他

令和3年度 千代田寮事業報告書

困難な事情を抱えた母子が安心・安全な環境で社会的、経済的に自立できることを目指して、母親に対しては、日常生活、就労等のスキルが向上するよう、また、子どもに対しては、生活・学習習慣の改善、社会性の向上等が図られるよう支援を行った。

令和元年度の後半から続く新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、令和3年度においても全期間に渡り感染防止を念頭においた施設運営となった。

令和3年度に入所した7世帯のうち4世帯が夫などからの暴力が理由であり、生活、就労面での支援に加え、健康面、心理面についても丁寧な支援を心がけた。知的障害、精神疾患などにより生活スキルの課題を抱えている母親に対しては、関係機関と連携してより多面的で個別的な支援を行った。

1 月別利用世帯数

(単位:世帯)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初日世帯数	28	27	28	30	29	30	29	30	30	30	29	29	-
初日入所	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
入所(中途)	0	0	2	1	0	0	1	1	0	0	0	0	5
退所	1	0	0	2	0	1	0	1	0	1	0	4	10
月末世帯数	27	27	30	29	29	29	30	30	30	29	29	25	-

※ 入退所理由

入所(7世帯)	夫などからの暴力 4、不適切な家庭環境 1、住宅事情 2
退所(10世帯)	自立 7、再婚 1、子どもの施設入所 1、夫等からの追跡の危険性 1

2 利用世帯の状況(令和4年3月1日現在)

(1) 利用者数

母親	児童	計
29人	50人	79人

(2) 利用理由

夫などの暴力	不適切な家庭環境	母親の心身の不安定	住宅事情	計
20世帯	5世帯	1世帯	3世帯	29世帯

(3) 出身地

県内	県外			計
	関東	甲信越	東海	
13世帯	13世帯	1世帯	2世帯	29世帯

(4) 児童の状況

乳幼児	小学生	中学生	高校生	計
26人	17人	5人	2人	50人

(5) 利用期間

1 年未満	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計
7 世帯	8 世帯	3 世帯	5 世帯	1 世帯	1 世帯	4 世帯	29 世帯

3 母親に対する支援

(1) 日常生活支援

- ・入所には支援担当者が立ち合い、その後、母親に寄り添って現在の気持ちや入所に至るまでの経過などを聞き取るとともに、転校や生活保護申請等の手続に同行する中で母親との信頼関係が構築できるよう努めた。
- ・母からの家事、子育て、健康などに関する相談に随時応じるとともに、必要に応じて買い物や病院受診等に付き添い、安定した日常生活を送ることができるよう支援した。
- ・母親がより深刻な生活上の困難を抱えた時には個別面接の場を設定し、母親の訴えを丁寧に聞き取って困難への対応策をともに考えるなどの対応を行った。また、必要に応じてフォロー面接を定期的実施した。

【個別面接の主な主訴内容】

- ・心身の悩み ・人間関係 ・子育ての不安 ・将来への不安
- ・自分の生育歴への怒りやその整理 ・生活全般の悩み
- ・離婚調停や裁判中はそのことへの不安や恐怖

○支援実績

(単位:回)

区分		上半期 (R3.4～9)	下半期 (R3.10～R4.3)	計
個別面接実施回数		592	697	1,289
ケースネット会議出席		1	0	1
関係機関への情報提供		1,019	957	1,976
内 訳	市役所・区役所	480	492	972
	警察署	14	26	40
	弁護士	106	49	155
	学 校	254	226	480
	児童相談所	85	102	187
	病 院	80	62	142
同 行 支 援	役所・買物・家事援助	161	191	352
	家庭裁判所・弁護士	4	4	8
	主治医訪問	23	17	40

(2) 就労支援について

- ・世帯の自立には安定した就労収入の確保が不可欠であるため、母親の希望や適性に沿った就労先が確保できるよう支援した。
- ・生活保護家庭の場合は、葵区福祉事務所生活支援課の就労支援員と連携して採用面

接への同席、履歴書作成等の支援を行った。

- ・障害等を抱える母親に対しては、医療機関、相談支援事業所と連携して作業所での就労を進め、母親の状況に応じて就労内容、時間を考慮するなどきめ細かく対応した。
- ・令和2年度から人材紹介・養成を専門とする企業（株式会社東海道シグマ）と連携した就労支援を実施し、カウンセリング等による適性診断や専門研修などを通じて就労先を確保できるよう取り組んでいるが、令和3年度においては、3名の母親に対して支援を行い、うち1名が正社員採用に向けてパートで就労中である。

(3) 保育支援

乳幼児を抱える母親が就職活動を行う場合や、母親の体調不良又は精神的な不安定さにより子どもの看護が困難な場合などに、保育室での一時保育や保育園等への送迎を行った。

○令和3年度 保育実績

（単位：件、人）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	16	13	18	14	18	12	14	12	12	8	15	10	162
人数	75	49	78	47	41	44	32	31	26	32	25	24	504

(4) 障害等のある利用者への支援

知的、精神的な障害のある入居者のために各種の制度、手当等の利用をアドバイスし、入所者が自立のためにより有利な状況を確認できるよう支援した。また、自立に向け通勤・通学や通院に公用車でなく公共交通機関を利用する同行支援を関係機関と連携して実施した。

(5) その他の支援

- ・離婚協議における弁護士との連絡調整及び裁判等への同行支援
- ・住民票移動がない状態での各種手続きへの同行支援
- ・退寮時の地域支援ネットワークづくり
- ・ケースネット会議への参加による関係機関との連携

4 児童に対する支援

(1) 日常生活支援

- ・遊びや学習などの機会を通じて子どもたちの心の安定を図るとともに、挨拶をする、礼儀やルールを守る、他児と仲良く過ごすなど円滑な社会生活を送るためのスキルが身につくよう子どもたちを指導・支援した。
- ・日々の生活場面での現れを観察するとともに、遊びや学習での会話をきっかけに気になる様子が伺えれば、面接を投げかけて行ったほか、子どもからの希望があれば随時面接を行った。

【主な主訴内容】

- ・学校生活の対人関係や学習、進路のこと
- ・千代田寮での生活のこと
- ・母や父との関係
- ・友達とのこと

(2) 学習支援

- ・入所前の虐待やDVなどにより学習環境が整っていなかった児童が少なくなく、学習習慣を身につけさせて学力の維持・向上を図るため、学習場所を確保し、担当職員を配置して支援を行った。
- ・中学生、高校生を対象に学力の向上や職員、他児との交流を深めるための学習会を24回実施した。
- ・令和3年度から小学校低学年児に対して、認知機能を強化し、学習の土台となる基礎的な能力を高めるため、「コグトレ」(Cog-Tr)と呼ばれるドリルを実施している。これは、間違い探し、似たもの探し、異なる視点からの類推、図形や数位の暗記といった様々な問題を繰り返し行うもので、令和3年度は、4名の子どもに実施した。

○令和3年度 学習指導実施回数児童参加人数

(単位:日、人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施日	21	18	22	20	21	20	21	20	17	19	12	13	224
参加人数	230	179	188	179	233	210	148	137	190	155	92	94	2,033

5 心理支援

- ・夫などからの暴言・暴力により心理的ダメージを受けて精神的不安定さを抱える母親に対してカウンセリングを行い、母親の安心感、安全感の再形成及び自信回復等を図った。
- ・母だけでなく子どもたちも父親からの被虐待経験を引きずっていたり、母親とうまく関係が持てなかったりして心理的な不安定さを有していることがあるため、カウンセリング、遊戯療法等を通じて心の安定を図った。

○カウンセリング等実績

区分	対象者数	回数(延べ)
母	11人	104回
児童	10人	43回

6 行事の開催

母親や子どもが施設の中での生活を楽しみ、精神的な安定や自立への意欲を高めてもらうために各種行事を実施した。令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、いくつかの定例行事を中止したり、内容変更したりした中、新たな行事として新年の餅つき大会を開催し、利用者に変好好評だった。

【3年度年間行事】

- 4月 1年生を迎える会 児童30名参加
母の日プレゼント制作 児童47名参加
エスパルス招待試合観戦 児童4名参加
- 5月 子どもの日行事 児童48名参加
児童文化奨励絵画展出品(県養協主催) 児童4名入賞
エスパルスパルちゃん福祉施設訪問

- 7月 七夕会 児童 56 名参加
- 8月 児童絵画展入選児童食事会 児童 5 名参加
夏休み児童バーベキュー 児童 22 名参加
- 10月 サツマイモ掘り
- 11月 焼き芋会
- 12月 クリスマス会 児童 65 名参加
- 1月 新年会（餅つき大会）母子 42 名参加
- 2月 節分会 児童 52 名参加
- 3月 ひなまつり会 児童 48 名参加

7 職員研修

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、例年関東ブロック圏域等で実施されている研修が中止になるなど、スキルアップのための場が十分に確保することができなかった。
- ・施設内研修では、入所者の支援状況の把握も兼ねて、全入所者の現況と課題、今後の対応を毎月開催するケース会議で報告した。職員自身が担当する世帯はもとより担当外の世帯についても理解を深め、様々な事例に関し意見を交換する場となり支援技術向上の良い機会となった。
 - 外部研修（オンライン研修）
 - コンプライアンス講座、リスクマネジメント研修会、フォローアップセミナー
 - 社会的養護を担う児童福祉施設長研修会、児童福祉施設等における暴力防止研修会
 - 静岡県性暴力被害者支援センター「SORA」関係機関向け研修会
 - 第 60 回関東ブロック母子生活支援施設研究協議会
 - 関東ブロック母子生活支援施設協議会施設長・職員合同研修会
 - 所内研修
 - ケース会議、テーマ別研修、少年指導員会議

8 実習学生の受入れ

将来、社会福祉に携わる人材の養成・確保を支援するため、大学等からの依頼に基づいて実習学生を受け入れた。

令和 3 年度は、県内大学・専門学校 5 校から 13 人を受け入れた。

9 緊急一時保護の受入れ

様々な事情により緊急的に保護が必要となった母子を県、市町からの依頼に基づいて専用居室において短期間受け入れた。

○保護実績

区分	世帯数	人数	延べ日数
静岡県	0 世帯	0 人	0 日
静岡市	3 世帯	9 人	36 日

10 危機管理対策

- ・新型コロナウイルス感染防止対策として、職員、来訪者のマスク着用、手指消毒を徹底したほか、所内会議における換気の確保、入居者への三密環境への出入り回避の要請を行った。
- ・本年3月になって施設内で同時期に3世帯、母3名、子ども7名の新型コロナウイルス感染と2名の母の濃厚接触が確認された。当施設では初めての感染確認であり、感染拡大を防止するため、室内隔離を実施し、これ以上の感染者の発生を抑えることができた。
- ・災害等に備え入所者の避難訓練、消火訓練を定期的の実施した。
- ・宿直制により職員が24時間常駐し、敷地内に防犯カメラを設置しているほか、防犯フィルム貼付、正門の常時閉切りを行っている。3年度では、不審者が正門のフェンス沿いをうろついていたことがあったため、防犯カメラを2台増設し、正門フェンス沿いのエリアの死角をなくして常時監視できるようにした。最寄りの交番には、緊急時の対応等について協力を依頼している。

11 退所者へのアフターケア

施設退所者が、退所後も安定した生活を送ることができるよう、電話や来訪による相談に応じたほか、心理カウンセリングや学童保育（トワイライトステイ事業）等を行った。

○令和3年度 アフターケア実績

（単位：人（上段 実人数、下段（） 延人数））

区分		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
相 談	電話	7	6	6	7	4	3	6	10	3	4	2	3	61
		(8)	(8)	(9)	(12)	(5)	(9)	(8)	(15)	(4)	(4)	(2)	(3)	(87)
	来訪	8	7	9	6	5	4	6	4	2	4	1	1	57
		(15)	(7)	(9)	(10)	(11)	(6)	(10)	(5)	(3)	(4)	(3)	(2)	(85)
学童保育 (トワイライト)		4	2	2	5	5	2	3	4	5	5	1	3	41
		(19)	(3)	(5)	(21)	(56)	(6)	(3)	(7)	(20)	(17)	(12)	(14)	(183)
心 理 カ ウ ン セ リ ン グ		1	2	1	2	2	1	1	1	1	1	0	1	14
		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(1)	(1)	(0)	(1)	(16)

12 地域との交流

- ・施設の一部を町内会の防災訓練や健康づくりの会場として提供した。
- ・清水エスパルスからは例年、支援を受けており、令和3年度もマスコットキャラクター「パルちゃん」が来訪し、利用者が励ましを受けたほか、エスパルス福祉基金から寄付金の寄贈を受けた。
- ・市内外の事業所、団体、個人から、化粧品、食料品などの寄贈を受けた。（ロクシタンジャパン㈱、餃子の王将、ドミノピザ、㈱カーブスジャパン静岡曲金店ほか）

13 広報・PR活動

- ・施設の認知度向上を図り、利用に繋げてもらうため、千代田寮の特色や魅力を分かりやすく紹介した「こんにちは 千代田寮です!」と「千代田寮利用のすすめ」を作成し、利用が期待できる県内や隣県、関東地方の福祉事務所のほか、過去に利用実績のある近畿地方の福祉事務所にも送付した。

【送付先】

県内... 市町の女性相談担当課及び2政令市各区の福祉事務所 32 か所

県外... 東京・千葉・埼玉・神奈川・山梨・長野・岐阜・愛知・三重・京都・奈良

市町村の女性相談担当部署 229 か所

14 環境整備

- ・快適で安全な施設環境を確保するため、園庭及び駐車場の枯れかかり美観を損ねていたサツキの植込みをそれぞれドウダンツツジ、レッドロビンに入れ替えて、整った良い印象を作り出すことができた。
- ・畑には子どもたちの参加も得てサツマイモを植え、秋に収穫して焼き芋会を開催して母と子が楽しんだ。また、花壇には季節ごとにその時期に開花する花を植え、四季を通じて彩を楽しめるようにした。
- ・駐車場について、倒壊の危険と出入りの際の視界の妨げが懸案となっていた駐車場出入り口のコンクリートブロック塀を撤去し、金網フェンスを設置したほか、見えかかっていた駐車スペースを区分けする白線を引き直し、併せて運転者への注意喚起のために「最徐行」の路面表示を行った。

令和 3 年度 千代田保育園事業報告

子どもの生活環境や子育ての環境が大きく変化し、子育て支援に対する保育園の役割はますます深化・拡大している中で、次の保育理念、保育方針及び重点目標に基づき、新型コロナウイルス感染拡大防止に留意しながら、充実した保育の提供に取り組んだ。年度末には第 74 回の卒園式を挙行之、35 名の逞しく成長した子どもたちを 10 校の小学校へ送り出すことができた。

○年齢別月別在園児童数

(単位:人)

月 年齢	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
0 歳	9	11	11	12	14	18	18	21	21	21	21	21	192
1 歳	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300
2 歳	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	31	32	396
3 歳	30	33	33	34	34	34	34	34	34	34	34	34	368
4 歳	35	33	34	35	35	35	35	35	35	34	34	34	420
5 歳	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	419
計	167	170	171	174	176	180	180	183	183	180	180	181	2,095

＜保育理念＞

子ども一人ひとりの人格を尊重する。あそびを通して、乳幼児期に知識や思考の土台となる経験をたくさんすることで、子どもらしい生き生きとした生活が豊かに営まれるように保障していく。

＜保育方針＞

子どもたちをとりまく環境をより豊かにし、自ら考え、自ら行動し、健康で思いやりの心をもった子どもに育てる。

＜重点目標＞

- 丈夫な体
- 豊かな心

1 保育の実施状況

子どもたちが積極的に戸外に出て、水、土、泥、砂に触れ、五感をフルに使ってエネルギーを高め、想像力をふくらませ、乳幼児期に十分な「あそび」を体験できるよう心がけた。併せて、他人と協調することや、子ども自身が自ら考え、自ら行動するといったことも重視し、子どもの頭と心と体がバランスよく育つよう配慮した。

(1) 裸足保育の実践

当園では、丈夫な体作りの一環として裸足保育に取り組んでいる。
子どもたちの成長を確認する手立てとして、毎年全員の足型を取ることであり、年齢ごとの体作りについても、何年か先の成長を見通しなら、今の時期に必要な体の使い方を意識しながら保育を行った。足型の記録を見た大学の先生からは、「足指の筋力に著しい発達が見られる。」と興味深いご意見を頂いた。

(2) 自然と触れ合う体験

天気の良い日には、公園や、四季折々の自然を感じながら近くの田んぼや空き地に出かけた。秋の谷津山登りについては、令和2年度に引き続き谷津山までの距離を短縮したコースで実施した。帰り道、足取りの重い年少児の手を、年長児がしっかり握って、無事に帰園した。

(3) 水・砂・泥あそびの推進・思考力の芽生え

夏は毎日、全クラスが、プール遊びを楽しんだ。令和3年度も、新型コロナウイルス感染予防のため、人数制限をし、入れ替え制にして入るなどの配慮をしての実施となった。冬でも暖かい日には、井戸水の蛇口をひねり、水を出し、容器の中に水を入れたり、こぼしたりして水の感触を楽しんだ。

砂場で山を作り、穴を掘ったり、川作りをしたりと創造力を膨らませて友達とあそびを発展させていった。「ピカピカだんご」作りは、砂の選び方、泥の水加減、磨き方等を失敗したり、工夫したり試行錯誤しながら、取り組んでいた。

(4) 絵本、紙芝居等に慣れ親しむ機会の確保

家庭では、子どもたちの遊びはテレビ、DVD、ゲーム、YouTube等が中心となっており、その影響が大きく心配されるため、園では絵本や紙芝居、お話等に慣れ親しむことができる機会を多くした。朝、夕の時間も有効に活用した。図書コーナーに関心を寄せるきっかけ作りとして、毎月、園だよりにより新刊紹介も掲載した。

乳児クラスも各部屋にクラス文庫を用意し、親子で利用できるように整えた。毎日、絵本を借りて帰るのを、楽しみにしている親子の姿もあった。

図書コーナー利用者人数（幼児）令和3年度

月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	81人	85人	66人	33人

- ・園だよりで紹介された本を借りている。
- ・図書コーナー利用者の家庭は、ほぼ決まった顔ぶれである。

◎ 令和4年度、年長児クラス用貸出カードを作り、子どもと担任で借り毎週、借りられる機会を作る。

(5) 食育の推進

「食育」の一環として、クッキング保育（カレーづくり、へそもちづくり、ホットケーキづくり等）を取り入れている。コロナ感染防止に、十分留意しながら行った。初夏には、野菜づくりに取り組んだ。ミニトマト、ナス、きゅうりが近年で一番の収穫数となり、水かけ等世話をする喜びを実感した。調理体験では、調理する人の大変さも知った。日頃から、給食職員との交流があり、仕事ぶりを覗くことも多い子どもたちは、「ありがとう」「おいしかった」と声をかけることが増えた。

また、年に何回か、給食職員が年長クラスに赴いて、実際にその場で子どもたちと一緒に、しいたけせんべいやバターを作って味見をするなど、子どもたちにとって、とても興味深いものとなった。しいたけも園で栽培したもので、その生育ぶりに子どもたちも驚いていた。

令和3年度も千代田寮の畑を借りて、さつま芋の栽培を行った。植えるところから始まり、草取り、水やり、収穫を経て、蒸しパンやふかし芋にして食べるという楽しい体験をすることができた。こういった様々な体験を通じて食への関心をより広く、深く高めることができた。

2 保護者支援と子育て支援

子ども一人ひとりの発達や保育方法、家庭状況、今抱えている問題などについて、保育士が意見や情報を交わす場を設け、園全体で情報共有等を図る。担任だけでなく、全職員（保育士以外の職員も含め）が、園児と保護者を支えようと意識した。

令和3年度も残念ながら、クラス懇談会は行われなかった。そのため、クラスだよりや、日々の子どもの様子をスナップ写真と共にコメントも付け掲示した。見える化にすることで、保育士にとっても、保育の振り返りとなった。職員の負担になることや、保育に支障が出ないように取り組むよう、気を付けた。

希望者には、担任と個人面談を行う機会を設け、保護者の不安・心配に寄り添うよう努めた。

また令和3年度は、コロナウイルス感染拡大防止のため、乳児クラスの運動会、生活発表会などは、参観会という形で行い、保護者の参加も限られたが、園での様子ができる限り伝わるよう、また共有できるようにした。

3 発達が気になる子どもへの支援

静岡市発達障害支援センター「きらり」より、年2回支援専門員を招き、発達障害がある子どもや、発達が気になる子どもについて、特性に合わせた支援を検討したり、「支援が必要な子の成長を支援するスキル」を職員が高

めるため、長年実施している。「千代田保育園は、自分のクラスの子どもだけを見ずに、みんなでどの子も見ている様子があり、とても良いですね。」との評価も頂き、今後も大事にしていきたい。

静大の教授にも年1回巡回指導、支援に来て頂いている。就学前の年長児保護者との面談もあり、適切な助言も頂けるが、希望する園が多く申し込みをしても実施されるとは限らないが、令和3年度も行うことが出来た。

今年度末、児童発達支援事業所に子どもを通わせる保護者から、「4月より保育所等訪問支援事業を利用したい」との申し出があったため、受け入れ予定。月2回程、児童支援員等が園に訪問し、集団生活に専門支援が必要な子どもへ観察・直接の支援を行うことにもなった。初めての試みである。

3 地域との交流

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、園児の祖父母や地域のお年寄りの保育園への招待や老人福祉施設への訪問を見合わせた。また、保育所が地域の中で親近感と信頼感をもたれる施設となることを目的とした“おしゃべりサロン”については、消毒、検温等を行いながらできる限り実施した。実施した内容は、「歯科衛生士の話」「タッピング・タッチ」「身近な素材で作ってみよう」である。

4 年間行事

- 4月 1日 入園式。新入園児 25名
- 2日 浅間山花見（年長児）
- 20日 新入園児・在園児対面式（100名）

- 5月 11日 動物教室（年長児）
- 12日 おしゃべりサロン（タッピングタッチ1名）
- 27日 嘱託医による健康診断
- 28日 嘱託医による健康診断

- 6月 3日 嘱託医による歯科検診
- 11日 おしゃべりサロン（歯科衛生士の話 参加者3組）
- 15日 消防署職員による花火教室（幼児クラス）
- 17日 プール開き

- 7月 1日 おしゃべりサロン（園庭解放 中止）
- 10日 千代田まつり（幼児クラスのみ参加。見学は年長保護者のみ）
- 21日 「お楽しみ会」（年長児35名）

- 8月 2日・3日 プール参観（乳児組は中止）

9月 3日 プール納め

8日 おしゃべりサロン（「きのいい羊たち」中止）

21日 へそ餅づくり（年長児）

10月 9日 運動会（雨天延期。競技内容、時間等を縮小し、幼児のみ参加。保護者見学は、クラスごと交代制で実施）

※ 乳児保育参観 6日 たんぽぽ組・12日ちゅうりっぷ組・
21日さくら組・26日 れんげ組

14日 おしゃべりサロン（保健師の話 中止）

21日 谷津山遠足

11月 1日 防災訓練

10日 おしゃべりサロン（身近な素材を使って作ってみよう
参加者5組）

15日 七五三の祝会・餅つき（れんげ組～こすもす組）

18日 みかん狩り（幼児クラス）中止
るくる・サイエンス教室（幼児組）

25日・26日 嘱託医による健康診断

12月 2日 嘱託医による歯科検診

7日・9日 生活発表会（幼児組・保護者各クラス入れ替え制）

14日 おしゃべりサロン（園庭開放中止）

22日 「クリスマスのお楽しみ会」

1月 14日 凧あげ（幼児クラス）

12日 シルエット劇場

20日 年長児お別れ遠足（当初の計画を変更）城北公園親子歩き遠足

27日 おしゃべりサロン（「絵本を見よう」）中止

2月 3日 豆まき 鬼や福の神が現れて豆まきを行った。

8日 お店やさんごっこ（年中、年長クラス）

3月 3日 ひなまつりの会（新型コロナウイルス感染拡大防止のため幼児の集いのみ）

19日 第74回卒園式（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、式を短縮（年長児35名）

※ 月間行事

・身長体重測定

・誕生会・童話会

- ・避難訓練
- ・職員会議
- ・絵本の読み聞かせ（年長、年中で隔月）中止

5 実習生の受け入れ

常葉大学短期大学部（1名）・静岡福祉医療専門学校（4名）・
静岡県立短期大学部（1名）
職場体験・・・リモート体験を実施 安東中学校（2グループ10名）

6 職員研修の実施

県保育所連合会、県保育士会、市保育士会、ときわ保育士会、日保協等による研修会にできる限り多くの保育士を参加させ、資質の向上に努めた。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ほぼリモートによる研修であった。●；オンライン研修

ときわ保育士会	実技研修：ドキュメンテーション 理事研修：中止 ● 保護者支援子育て支援の意義 実技研修会：浮く・沈む・アメンボの不思議
静岡市保育士会	● 養護講座
静岡県保育士会	● 保育士研修会：乳児発達と保育
全国保育士会	● 関東ブロック保育研究大会
日本保育協会	● キャリアアップ：マネジメント 障害児保育 乳児保育
静岡市子ども未来局	● 子どもの行動への基本的対応
静岡県保育連合会	● 中堅保育者研修会：保育の中の宝物 ● キャリアアップ：障害児保育 マネジメント ● 施設長研修
厚生労働省	● 保育分野の保育改善
静岡市保育協会	幼児の運動あそび：中止
静岡市発達障害者支援センター	● 発達障害対応力向上研修
県社会福祉事業共済会	フォローアップセミナー
静岡市私立園長会	● 保育環境 ● ICT化活用の実践例
静岡市医師会	● 施設長保育園の感染対策適正化
その他	● 初任者保育所所長研修 ● 初任者主任保育士研修

7 他機関との会議等への参加

下記会議等に園長、主任が出席し、協議及び情報収集を行った。

- ・ときわ保育士会、静岡市保育士会、静岡県保育士会等の総会
- ・県保育所連合会、県中部支部等の総会
- ・私立園長会
- ・ときわ保育士会役員会、理事会
- ・市保育協会
- ・城東子育て支援センター
- ・リモート視察研修

8 一時預かり事業

在園児以外の近隣住民の乳幼児を預かることによって、地域で安心して子育てができる環境整備に寄与した。

令和3年度は、コロナ感染状況をみながら、人の乳幼児の預かりを行った。

(単位:人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数	1	0	5	1	1	1	1	2	1	0	0	4	17

9 保護者アンケートの実施

園の運営方針、施設環境、保育等に関する保護者アンケートを実施し、回収率は62.94%であった。「保育方針と実際の保育は一致しているか」「子どもは園生活を楽しんでいるか。」「保護者からの相談に職員は誠意をもって対応しているか」「給食やおやつの献立は工夫されているか。」などのほとんどの項目で9割以上の保護者が良いと評価した一方で、職員間で保育姿勢や対応にばらつきがあると感じている保護者がいることもわかった。職員でこの結果について周知した。そして、取り組みの改善や質の向上につながることで、保育が「もっと楽しく」なるようにし、今後もこのアンケート調査を継続して実施、これからの保育園の運営に役立てていきたい。

10 危機管理対策

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当園する児童、送迎する保護者に対しては検温、手指消毒を徹底したほか、園内での三密状態をできる限り回避するため、活動の小グループ化、行事の縮小・中止などの対応を行った。

地震や火災時に子どもたちが安全かつ円滑に避難できるよう、毎月、避難訓練を実施した。また、外部からの不測の侵入者対策として、園への出入り口を駐車場側の1か所に限定している。

熱中症対策としては、昨夏も暑さが厳しかったため、各クラスのエアコンをフル活用するとともに、幼児クラスには水筒持参をお願いし、乳児には麦茶を与えてこまめな水分補給を行うなど子どもたちの健康管理に留意した。